

デーリー東北

2017年（平成29年）5月5日（金曜日）（16）

八戸

八戸工業大基礎教育研究センターの田中義幸准教授が今春、国際協力機構（JICA）の専門家に就任し、日本とフィリピン、インドネシアによる国際共同研究プログラムに参加する。マングローブ

林や海草藻場などの沿岸生態系が環境に及ぼす影響を調査するだけでなく、現地に研究を継続する体制も構築する狙いで、日本を代表する研究者の一人として、温暖化など地球規模の課題解決に挑む。
（田村祐子）

八工大 田中准教授 JICA専門家に

地球規模の課題に挑む

田中准教授は、海洋生態学が専門で、陸奥湾のアマモ研究などに取り組んでいる。海洋研究開発機構陸奥研究所に在籍していた時期もあり、東南アジアでの研究実績も豊富だ。研究は、JICAと科学技術開発機構（JST）が2022年3月までの5年間実施。田中准教授は10日前後の期間で年数回、東京大や北海道大から選ばれた専門家と共に研究に励む。沿岸海洋生態系が吸収、隔離する二酸化炭素は、陸生植物の「グリーンカーボン」に対し「ブルーカーボン」と呼ばれる。

東南アジアで沿岸生態系調査 温暖化などにどう影響



国際共同研究プログラムのメンバーに選ばれ、意欲を語る田中義幸准教授

田中准教授は「生態的知見を伝え、地元の豊かな環境でブルーカーボンの仕組みを解明し、海洋科学の発展に貢献したい。科学者の豊かな生態系を残す価値を知ってもらえれば」と意欲に燃えている。